

2020年5月22日

各位

会社名 佐世保重工業株式会社  
代表者名 代表取締役社長 名村 建介  
問合せ先 総務部長 廣津 忠  
(Tel 0956-25-9111)

「2020年3月期決算」に関するお知らせ

当社の2020年3月期決算を下記の通りお知らせします。

記

1. 連結決算状況（2019年4月1日～2020年3月31日）

(1) 損益状況

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
2020年3月期	32,035	▲7,321	▲7,509	▲8,355
2019年3月期	31,073	▲3,295	▲3,236	▲3,554

(2) 売上高のセグメント別内訳

(単位：百万円)

	新造船	艦艇・修繕船	機械	その他	合計
2020年3月期	25,356	2,813	3,069	795	32,035
2019年3月期	21,445	6,855	2,050	722	31,073

2. 当期の概要について

(1) 事業の環境

当連結会計年度におけるわが国経済は、米中貿易摩擦問題による世界経済の減速の影響を受けて製造業を中心に国内景況感が悪化するなど不透明な状況が続く中、本年に入り新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により国内外の経済は急激に落ち込み、先行きについても極めて厳しい状況が続くと見込まれます。

日本造船工業会によりますと、2019年暦年における世界新造船竣工量は前年同期比14.4%増の6,614万総トン、新造船受注量は前年同期比17.7%減の4,149万総トンとなりました。竣工量については本年7月以降の引渡し船が対象となるIMO（国際海事機関）の調和共通構造規則（H-C S R）の適用を回避するために駆け込み建造があった影響もあり、前年同期よりも大幅に増加しましたが、その反動もあって受注量が前年同期よりも大幅に減少し、世界の造船手持工事量は16年ぶりの低水準となりました。本年度後半から新造船需要に回復の兆しが見え、2020年春節明けの商談の活発化が期待されておりましたが、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の影響により世界経済の減速と海運・造船市況の低迷はしばらく続くことと予想されることから、船主の新造船発注意欲は大きく減退しました。一方、新型コロナウイルスによる急速な景気悪化に対して各国政府が積極的な景気刺激策を打ち出すものと予測され、世界貿易を担う海上輸送が正常化し、新造船需要も回復することが期待されます。

艦艇・修繕船事業においては、新造船需要の低迷により中国および東南アジアの造船所を中心に一般商船の修繕船による仕事量確保のために低価格を提示するなど、厳しい価格競争が繰り返されており、また機械事業においても当社の主力製品である船用主機向けクランク軸など船用資機材は、国内における新造船建造量が依然として低迷しており厳しい状況が継続しております。

## (2) 当期の業績

当社グループの当連結会計年度の最重要課題として、当社の中核事業である新造船事業の工程混乱の収束とその影響を受けた納期遅延などに対して、親会社である株式会社名村造船所の支援を受け抜本的な解決に取り組みました結果、完工・引渡船が2017年度は2隻、2018年度は4隻にとどまった両年度からのずれ込み船を含め、本年度は9隻を完工・引渡し納期遅延問題についてはほぼ解決しました。

当連結会計年度の売上高は、艦艇・修繕船事業においては国内艦艇の定期検査工事が端境期であったことにより減収となった一方で、新造船事業において前年度竣工予定船の本年度ずれ込みにより増収となったこと、機械事業においては上述の厳しい事業環境にもかかわらず、クランク軸の販売数量の増加による増収により32,035百万円（前期比3.1%増）となりました。

損益面は、新造船事業において売上対象船が総じて低船価であったことや鋼材などの資材価格の高止まりに加え、工程の遅れを挽回するために多くの社外工を投入したことにより原価が大幅に悪化したこと、当連結会計年度末の米ドル為替レートが前年末と比較して円高になったことにより工事損失引当金の繰入額が増加したことなどにより、連結営業損失は7,321百万円（前期は3,295百万円の営業損失）連結経常損失は7,509百万円（前期は3,236百万円の損失）となり、特別損失として投資有価証券評価損719百万円を計上した結果、親会社株主に帰属する当期純損失は、8,355百万円（前期は3,554百万円の純損失）となりました。

## (3) 対処すべき課題

当社は今回策定した新3ヵ年中期経営計画（2020年度～2022年度）において、株式会社名村造船所との統合を加速化していく方針であり、親会社の支援を受けながら新造船事業の再建・強化を図るとともに非新造船事業（艦艇・修繕船事業、機械事業）の収益力を強化し、業績の早期回復・早期黒字化を実現してまいります。

すでに新造船事業では、統合加速化の一環として、本年4月より新造船の平行部ブロックをコスト競争力の高い名村造船所伊万里事業所へ製作委託しており、今後は平行部ブロックの協業を突破口に、生産体制の抜本的な見直しや設計、品質管理、資材調達、生産管理の統合・共通化など、名村造船所伊万里事業所との一体運営を本格化させて競争力の強化を図っていく方針です。

以 上

### 【問い合わせ先】

佐世保重工業㈱  
総務部長 廣津 忠  
(0956-25-9111)